

いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

可も不可も人生行路菊活ける

刈谷 志津 選

片岡 包女

（評）作者は現在九十六歳。この長い人生の道程には、さまざまな出来事があったのではと想像される。作者は自分の「人生行路」（人がこの世で人として生きてきた道）を「可も不可も」（良いこと、良くない事）と五字にまとめた。まさにその通りでは。下五の「菊活ける」菊は気品と清香のある晩秋の王花として、人々に愛され親しまれている。作者は、過ぎ去った日を静かに振り返りながら菊を活けている。お元氣な作者は若い時からの趣味の一つとして俳句を続け、毎月の投句を忘れることなく送ってこられる。本当に尊敬をし、また羨ましくも思う。この恵まれた晩年が、いついつ迄も続きますように。

うろこ雲余白は少し青い空

岡村 嘉夫

（評）うろこ雲とは鯛雲のことで、空一面に白雲が斑点状または列状に広がっている雲を言う。白斑は鯛が群れているように見えるので鯛雲と言ひ、また鯛雲とも言う。学術的には「巻積雲」で、この雲が出ると降雨の前兆とか鯛の大漁があると言われている。いかにも秋らしい雲の一つで、しみじみ秋が来たことを実感させる。青色の天空に鯛雲がかかると漁業者始め、魚を戴く我々も大漁と言う喜びが湧く。また雨を待つ者にも吉報となる。青空の隅を少し残し、いっばいに広がった見事な秋の空模様がよく見える。うろこ雲は有り難い雲。豊漁を期待し心弾む嬉しい一句。

コスモスの受け流したる風の道

竹崎たかひろ

（評）コスモスは「秋桜」とも言い、メキシコ原産で色は多彩。その上栽培がしやすい。前年に落ちた種がわんさと生え、秋には華麗で小さな草花を咲かせる。よく見ると、単純な中に現代気どりのモダンで気の強そうな所も見える。中七の「受け流したる」コスモスは、何故か風とは親しい間柄かも知れない。いかなる厳しい風が吹こうとも隣

同士がしっかりと支え合い、しなやかに風を受け流す。そこがコスモスの強さの現れだと思ふ。人々の心を和ませ癒してくれる花。私の胸中にはいつも咲いている。コスモスの風への対応「受け流したる」の措辞に共感を覚える。

入選

きのふとは違ふ音して堰の秋
むつかしきことはさて置き栗の飯
瑞穂波黄金の秋見はるかす
名月は金波銀波の海原を
明日も亦期くてありなん老の庭
さわやかな鉄のリズム理髪店
秋思かななぜかこの頃夫の夢
あれこれと思ひめぐらす秋の暮
鉦叩き夜のしじまのなお深し

東谷 晴男
東谷 晴男
渡邊ゆかり
渡邊ゆかり
大川 節弥
川村 博子
津田 久美
森岡 照月
小野川町子

一句抄

終の里吹く秋風を友として
百日紅ユンボー止めて留守の庭
少しづつ粧い初めし四方の山
山家とて菊に暮れ行く水の音
お振りの皿をはみ出す秋刀魚かな
曼珠沙華棚田は赤赤赤に燃え
仲秋や亡き妻偲ぶ一人席
鴈の秋きのふのことはきのふにて
晩秋の雲が遠くへ誘いくる
父と母逝きたる丘の秋ざくら

大川 節弥
川村 博子
津田 久美
片岡 包女
岡村 嘉夫
渡邊ゆかり
森岡 照月
東谷 晴男
竹崎たかひろ
刈谷 志津

次題「当季雑詠」

締切／毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1

893-1922

有料広告

やまおか眼科

院長 山岡 昭宏

いの町新町20-1

TEL (088) 893-5161

■日帰り白内障手術

■OCT (光干渉断層計)

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○ 13:00 まで	○	○
午後 2:00~5:30	○	手術	○	△	○	▲

▲第2、4土曜日 午後1:30~4:00

▲第1、3、5土曜日 午後休診

休診／木曜午後 日曜祝日